



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

- ・一般 共通善と人間が大切にされる社会の建設
- ・宣教 秘跡とみことばの黙想による福音宣教の使命の自覚
- ・日本 難民移住移動者の子どもたちへの教育の機会

子どもたちが典礼奉仕する平和祈願祭 平和を祈り、学び、実践しよう

機会にしようと、今年も子どもへの参加を意識した典礼で進められた。

平和祈願ミサは18時から浦上教会で、高見三明大司教主司式、駐日教皇大使ジョセフ・チエノツトウ大司教と7教区(札幌・さいたま・名古屋・大阪・広島・福岡・大分)の司教と代表らが参列し、50人余の司祭団の共同司式のもと約900人が参加して行われた。韓国如己の会から中学生を含む22人と、広島教区の巡礼団15人余の姿もあった。

説教の中で高見大司教は、「イエス様は平和をつくるために自分の命をお与えになりました。平和をつくるため、私たちは可能な限り、祈り、学び、活動しなければなりません」と行動す



入祭前に被爆マリア像と折り鶴を奉納

長崎原爆忌の8月9日(火)、長崎大司教区は「神のいつくしみを共に生き 伝えるために」をテーマに平和祈願祭を行った。被爆者の高齢化に伴い原爆と戦争を知る人々が少なくなる中、将来を担う子どもたちに原爆や戦争について考えてもら

ることを強調した。聖体拝領後はチエノツトウ大司教が日本語で、神のたまも



平和公園での祈り

聖歌や朗読・奉納など、多くの子どもたちが奉仕した今回の祈願祭。ミサの司会を務めた城山教会の谷口豊さん(中2)

と谷口ひかりさん(中1)は、「原爆で亡くなった人たちに届くように心を込めて司会をしました」「またこのような機会があれば、参加される方のことを考えながらしていきたいです」とそれぞれ話した。実行委員会関係者は、「以前から、時代の流れとともに記憶の継承や意識の持ち方に危機感を覚えていました。今回たくさんの子どものま

た。引き続き、津軽三味線奏者の萩原遼氏とピエール小野氏による演奏が2曲奉納された。そのうち「Beyond」(「向こう側」の意味)は、被爆による悲しみや怒りの向こう側にあるものを表現した楽曲で、爆心地に力強く響いた。

式の中で高見三明大司教は献水の儀を担当し、原爆殉難者に水を献げ

た。また駐日教皇大使ジョセフ・チエノツトウ大司教は、神のたまもの

である平和を願ってラテン語で主の祈りを唱えた(写真)。式典の終わりに、恒例となった「長崎の祈り」(作詞・作曲野下千年師)を全員で合唱し、長崎からの平和への思いを新たにしました。

今年初めて式典に参列した男性は、「全国から名だたる宗教者が長崎に参集していることに驚き、感動を覚えた」と感想を語った。



た。また駐日教皇大使ジョセフ・チエノツトウ大司教は、神のたまもの

である平和を願ってラテン語で主の祈りを唱えた(写真)。式典の終わりに、恒例となった「長崎の祈り」(作詞・作曲野下千年師)を全員で合唱し、長崎からの平和への思いを新たにしました。

今年初めて式典に参列した男性は、「全国から名だたる宗教者が長崎に参集していることに驚き、感動を覚えた」と感想を語った。

長崎・福岡・大分・鹿児島・那覇の5教区からなる「長崎教会管区」の司祭集会が、10月25日(火)から27日(木)まで、福岡市で開

催される。東京と大阪の両教会管区ではしばしば行われているが、長崎では初めての試みとなる。

浜口末男司教(大分)は事前準備の研修会で、長崎教会管区司祭集会の意義を次のよ

うに語った。「当初は沖縄に集まろうとした。基地問題がどんなに大変な問題であるかを皆に実感してもらったためだ。沖縄教

区だけで動いても微力ではない。他教区も自分たちの殻に閉じこもって

てしまふ。これを機に九

長崎教会管区司祭集会

福岡で10月25〜27日開催

うに語った。「当初は沖縄に集まろうとした。基地問題がどんなに大変な問題であるかを皆に実感してもらったためだ。沖縄教

区だけで動いても微力ではない。他教区も自分たちの殻に閉じこもって

てしまふ。これを機に九

うに語った。「当初は沖縄に集まろうとした。基地問題がどんなに大変な問題であるかを皆に実感してもらったためだ。沖縄教

区だけで動いても微力ではない。他教区も自分たちの殻に閉じこもって

平和のために一つに

被昇天の日に聖母平和祈願祭

8月15日(月)13時、佐世保地区評議会はアルカスSASEBOで聖母平和祈願祭を行い、会場となった大ホールは約700人の参加者で満たされた。

第一部では平和を願って、楽器の演奏や聖和女子学院コーラス部による合唱が行われた。

第二部のミサは、折り鶴や平和を求める祈りをまとめた冊子など、各教会が準備した平和に関連するものを捧げることから始まった。ある教会は、

「私はこのミサの説教のメモを教会に忘れてしまいました。でも、決して忘れてはいけな

い。でも、決して忘れてはいけな

WYD2016 クラクラ大会 “憐れみ深い人は幸い”

7月26〜31日、ポーランドのクラクラでワールドユースデー(WYD)が開催された。長崎教区からは2人の青年が、ホームステイをしながら参加した。

WYDは聖週間の典礼をたどる形で行われる。開会ミサ、教皇歓迎式典、十字架の道行、土曜日の晩の祈り、そして日曜日の派遣のミサを通して、今大会のテーマ「憐れみ深い人々



教皇歓迎式典を終えて(7/28)

による派遣ミサには、大会本部発表によると世界中からおよそ150万人の青年が集った。教皇フランシスコは「恐れず主に従おう」と諭され、ありのままの自分を愛してくださっている主のいつくしみに生きるようにと励ました。

参加者の西田祐尚さん(大神学生・鮑の浦教会)は「同世代の人たちとの信仰による一致と更なる絆の強まりを感じました」と語る。また岩永七波さん(浦上教会)は「神様からのお恵みと



派遣ミサに集まる参加者たち(7/31)

自分の中にとどめてはおけません。これこそが、神様が若者に期待しておられることなのかもしれない」と今後の意気込みを語った。

今回、現地の日本語学校の生徒の皆さんの協力を得て、何不自由なく過ごすことができたことは本当に大きな助けとなった。今大会のテーマの

みことばを胸に、助け合い、励まし合いながらプログラムに参加した。お世話になったホ

ストファミリー、ボランティアスタッフの皆さんの温かい愛情に包まれ、別れを惜しみながら帰国の途についた。こ

今回のミサは、折り鶴や平和を求める祈りをまとめた冊子など、各教会が準備した平和に関連するものを捧げることから始まった。ある教会は、

「私はこのミサの説教のメモを教会に忘れてしまいました。でも、決して忘れてはいけな

★ほしかげ★

熊本地震から3週間が過ぎた5月上旬、熊本市内の教会を訪れた。主任司祭が連絡していたのだらう。20人ほどの信者が待っていた。車が着くなり、長崎から同行していた老司祭のもとへ駆け寄る。10年にわたって共に祭壇を囲んだ牧者との再会に、自然と笑みがこぼれる。「あんたたちの家は大丈夫やったとね」と聞く司祭に、年配の男性が答えた。「瓦が落ちて、壁にヒビが入っているのは当たり前ですよ。余震のたびに、ヒビがどんどん大きくなって、怖いやら悲しいやら」▲案内してくれた主任司祭からも話を聞いた。4月16日の本震があった時、何人もの方々が「大丈夫ですか」と水や食料を持って駆け付けてくれたという。数日後には用紙を準備し、必要な援助の聞き取りやボランティアの募集などに取り組んでいたそうだ。「その人も大きな被害を受けているのに、本当に頭が下がる」▲一方で空き巣が多いという。少しでも役立てばと、プロレスラーたちが夜警を買って出たそうだ。「この地震で人の優しさと醜さを思い知らされました。」ぼつりとつぶやいた信徒の言葉が心に残る▲人の心には、優しさと醜さ、いつくしみと無関心が混在する。それはどのような形で表に出てくるのだろうか。「この地に慈しみと正義と恵みの業を行う事その事をわたしは喜ぶ」(エレミヤ9・23)。義といつくしみの人は、自らの列福を通してささやきかけている。(F・O)



高山右近列福へのカテケージス① ユスト高山右近という生き方 ―神にささやく人といつくしみ―

列聖推進委員会 古巣馨

◆あなたはこう思われますか

覚悟の人のささやきは、時を越えて魂に届きます。

1614年11月、長崎は福田の港からの出帆を前に、親友細川忠興に宛てた右近の一通の手紙が今も残っています。「近いうちに船出します。……死を覚悟して弓を引き、戦場に散ってその名を後世に残すと歌った武人がいます。わたしは南の海に赴き、いのちは天に預けてその名は忘れ去られるでしょう。どう思われますか。60年の苦しみも、はやお別れになりました。その間のお礼は口に出して申し上げることはできません」(細川家永青文庫所蔵)。「人は一代、名は末代」を徳目にすえた時世、何の手柄も名も残さず、追放の身をただひたすらに生きた人の最後のささやきを、忠興はどう聴いたのでしょうか。

いのちを天に預けた人を永遠の「命の書」(黙示録3・5)に刻まれるお方は、定められた日、御父の前でその人を自分の仲間だと言いつつ約束されました(マタイ10・32)。隠れたことを見ておられる父は、かつてこの国で生きたことさえ消し去られた人を、私たちの時代に公にされました。今年1月21日、教皇フランシスコは401年前追放先のマニラで客死した日本人信徒を福者の列に加えることを承認しました。ユスト高山右近、自分の名は捨ててキリストの名を証した人です。あなたはこの人を知っていますか。神にささやきながら生きた人は、時を越えて今またあなたにもささやきかけてきます。「神だけを頼りにした私を、あなたはこう思われますか。」

◆再来した殉教者

同じことを繰り返すのは、伝えたいことがあるからです。何度も何度も書きつづり、語り継ぐことで、過去の息吹は現代の気力となります。そうして、先に生きた「心の人」(イザヤ57・15)は今も生きつづけるのです。西暦2000年が明けた時、教皇ヨハネ・パウロ2世からあふれた思いは殉教者の信仰でした。「わたしたちの世紀において、

殉教者が再来しました。その多くは名前さえ分からず、あたかも神の栄光のためにいのちをささげた『無名戦士』であるかのようです。教会は可能な限り、彼らのあかしを保持すべきです」(使徒的書簡『紀元2000年の到来』37)。

なぜ、教会は福音を鮮やかに生きた人たちを、繰り返して語り伝えて列福・列聖するのでしょうか。「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです」(1コリント15・3)。キリストの福音は、倫理的な決断や高邁な思想によってではなく、ある出来事、生身の人間の日々の暮らしを通して明らかにされ、伝わるものです。教会は2000年の間、キリストを源に多くの殉教者(証し人)を通して信仰を受け渡してきました。

「ワレラノムネ アナタノムネ オナジ」150年前各地のキリシタンたちが告白した信仰は「マルチリオ(殉教者)の心得」でした。ローケーニユ神父に信仰を試された時、「役人に捕らえられて殉教するならば、それは大儲けです」と勇み立った五島の高木下村与作をはじめ、浦上四番崩れで配流され拷問の末にいのちをささげた人たちが証したのは、殉教者の信仰でした。

日本の教会は信徒発見100周年の時、ユスト高山右近の没後350年を共に記念し、途絶えていた右近の列福運動を再開しています。記念の節目が偶然に重なっているからではなく、あらためて「オナジムネ」をたどると、潜伏の教会の入り口に手渡すべき信仰をまも上げた右近がいたからです。「教会の柱石」「伴天連の大旦那」と呼ばれた右近を抜きに、日本の教会のオナジは語れないのです。

1981年2月26日、西坂の「殉教者の丘」にひざまずいたヨハネ・パウロ2世は、長崎を「この殉教者の丘に基礎をおく教会」と定義され、世界のキリスト者に対して信仰と忠実の模範、希望のしるしとなることを期待しました。それは、手渡された殉教者の信仰を今も証しするようにとの励ましでもありました。世界の教会は、再び長崎と日本の教会の独自の信仰を確認したので

2009年2月、日本の司教団は列聖省の助言に従い、それまで証聖者として手続きが進められていた右近を、殉教者に切り替え正式に列福申請書を提出しました。「右近の人生は長い殉教生活でした。」右近の死に際し、報告書を作成した時のイエズス会管区長ヴァレリオ・デ・

レデスマのこの結びの一文が、その後、繰り返して伝えられてきました。迫害と潜伏の日本の教会はその信仰を追い求め、手渡してきたのです。今また殉教者が再来しました。

◆降りて行く人たち

1615年2月3日追放先のマニラで客死した右近は、語り伝えられるべき人として、その翌年には列福申請の準備が開始されています。しかし、日本は司教不在の長い潜伏時代に入り、その手続きも途絶えています。やがて、信徒発見直前1862年の日本二十六殉教者の列聖、5年後の二〇五殉教者の列福、1987年トマス西と十五殉教者の列聖、そして2008年ベトロ岐部と一八七殉教者の列福。時は神からの使者です(『ビエール・ファヴァル』)。右近の生涯を丁寧調べて黙想した時、神がここまで右近の列福を引き延ばされた理由が分りました。

ベドロ・モレホン、ヨハネス・ラウレス、フーベルト・チースリク、片岡弥吉、結城了悟、溝部脩……。我がことのように繰り返して右近を伝えた人たちは、右近は長い間、ユスト(正義)という洗礼名のとおり、「義の人」「剛毅の人」「高潔な人」として真つすぐ神への道をたどる者の模範とされてきました。5年前、私も右近を伝えようと起草しました。しかし、多くのドロップアウトを生み出す壊の時代に「義の人・右近」は重すぎ、萎えて筆を擱きました。東日本大震災が起きたのは、その時でした。

日本中が瞬きもせず、涙目に



被爆再現人形に衝撃も

広島ピース・スタディー

8月5日(金)〜6日(土)、教区平和推進委員

中学生19人(浦頭6、紐差2、太田尾5、稲佐1、西町1、滑石1、深堀3)、引率の大人7人と高見三明大司教の合計27人が参加した。

5日午前7時、一行はバスでカトリックセンターを出発。広島到着後は平和記念資料館を訪ね、夕方、カテドラル戦時教会での同教区主催の平和行事に参加。平和祈願ミサの説教では、9月19日に



会は広島ピース・スタディーを実施し、和を求めるメッセージを述べた。6日午前8時、同教会での「原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ」に気づき、その後、広島市内の殉教地へ。平和推進委員長の岩村知彦師から平戸・生月島ゆかりの殉教者の話を聞いた。引率者の一人、丸尾育朗さん(平和推進委員、諫早教会)は、「資料館で、被爆者の皮膚が垂れ下がり腕の前に出して歩く様子を表した展示の前では、怖くて目を背ける子もいました。夜の平和祈願ミサでは、教皇大使を拝見するのは初めての子がほとんどだったと思います」と話していた。

◆負け組からの福音

撰津の国は高山に生まれ、フィリピンはマニラで終わるまでの63年の人

なつて見届けたものがありました。押し寄せる真つ黒い波に向かって降りて行き、「早く高台に、早く高台に逃げてください。生きてください」と叫びながら消えて逝った人たちの姿です。地域の民生員、防災課の職員、警察官、町や村の消防団……。低い処に低い処に降りて行き、いのちの方角を指し示した人たちです。しばらくして、一度は腑抜けしてしまった人たちが自分に誓うように言いました。「あの人たちがいたことで、東北は救われました。いえ、人間が救われました。あの人たちはいのちよりも大切なものがあることを、身をもつて教えてくれました。これからどんな社会をつくり、どんな人間を育てていったらいいのかわからない。いのちの問いかけています。」降りて行つたいのちの神にふれた人たちの心からの告白です。降りて行く人たちのの中に、いのちの輝きを見たのです。

「ああ、ここに高山右近がいた」「それは直感にも似た得心でした。人生は一度限りの出来事ですが、その意義はいつも未来に開かれています。今だからこそ見えてくる右近の新たな霊性です。忠興に宛てた右近のささやきを、今たしかに耳にしました。「この生き方をあなたはこう思いますか。」一度は擱いた筆をまた執つて走らせました。

生。その半生、29年は追放の生活でした。戦乱の世に身分ある家柄の子として生まれた右近は、下克上の熾烈な競争社会で、もつて生まれた才能で頭角を現し、時の権力者信長、秀吉、家康が目をとめる存在にまで登りつめていきます。周囲がうらやむほどの成功者として、洋々たる前途は開けていました。しかし右近は、権力者の思惑どおり、また周囲の人たちの期待とはまったく違った生き方を見せていくのです。登りつめるかに見えた人が、降りて仕える道をたどり始めるのです。追放者右近を預かった盟友前田利家の言葉が残っています。「あの人ほど清く、義を生きた武人はいない。もし、秀吉の寵愛を失わなかったならば、日本で第一の大名、武將になっていたことだろう。ただ、右近殿は自分の信じる神により大きな義を誓って、まっすぐに生きておられる。」

神は、かつて過酷な競争社会の中で、「負け組」の右近を通して福音を伝えようとされました。そして今、競い合うことに疲れ、軋み始めた現代社会に、右近は大切な使信を投げかけてきます。今、「時の使者」によって告げられた高山右近列福のわけがここにありま。右近はなぜ、あえてあのような生き方を選んだのでしょうか。高山右近という生き方はどのようにして育まれ、形作られていったのでしょうか。来年2月7日の列福式を前に、右近がたどった道を共に歩んでみましょう。

山内清海神父連続講演会 現代社会の間(はざま)に生きる

現代社会に潜む現代的・具体的問題を浮き彫りにしてその核心に迫り、正しい生き方を模索したいの思いから連続講演会を企画しました。第1回の演題は「自由」です。

講師 山内清海(神学博士・哲学修士)
福岡大学・スルビウス神学院教授、院長、長崎純心大学教授、大学院教授、長崎大学非常勤講師などを歴任し、現在お寺のマリア修道会付き、長崎教区司祭。
日時 10月30日(日) 14時30分〜16時(14時開場)
場所 長崎市立図書館多目的ホール(興善町1-1)
入場料 無料
主催 ミカエル会
連絡先 095・862・1892(小畑)

なが さき せき ちよう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

家庭祭壇・聖具 **Kaori** 祭壇・長椅子・朗読台
佳織木工所
代表 ラウラ・ビクーニャ 濱口佳織 ☎857-0032
TEL (0956) 23-1867 HP kaori-mokkousho.com

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役 ミカエル 溝口 晃
☎858-0926 佐世保市大湊町586
TEL (0956) 47-4380

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリアル・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
☎0120-44-6666

フランスとイタリアを巡る プティジャン司教叙階150周年記念巡礼

6月23日(木)～7月2日(土)、ベルナル・タデー・プティジャン司教叙階150周年を記念するフランス・イタリア巡礼が、高見三司教を団長に全国から総勢29人の参加者を得て、実施された。



ブランジー教会

プティジャンは信徒発見の翌年、1866年に日本使徒座代理区長に任命され、香港で司教に叙階された。今回の記念巡礼は、プティジャンの出身地フランス・ブルゴー

ニュのオータン教区や、いくつかの特別聖年にあたり、屏が開かれていたイタリア・ローマの四大バジリカを中心として訪ねた。



サンタ・マリア・デッロルト教会にて

イタリア・ローマでは、いくつかの特別聖年にあ

父プティジャン司教が残る場所。現地に日本人のシスターらと共に感謝の祈りを捧げた。また今年、ルルドの聖母出現で有名な聖ベルナデッタがスヴェー

たつて開かれている4つの大バジリカの「聖なる門」を通り、いくつかの恵みにあずかることができた。

タ・マリア・デッロルト教会では、一八八福者の列福式が、翌年2009年に長崎教区が寄贈した中浦ジュリアンの絵(三牧権子氏作)にも対面した。

参加者の一人、長野宏樹さん(西町教会所属)は、「プティジャン司教出身のプ



タ・マリア・デッロルト教会では、一八八福者の列福式が、翌年2009年に長崎教区が寄贈した中浦ジュリアンの絵(三牧権子氏作)にも対面した。

参加者の一人、長野宏樹さん(西町教会所属)は、「プティジャン司教出身のプ

上五島地区信仰教育委員会は7月10日(日)13時半、「祈り」をテーマに、「いつくしみの特別聖年記念行事—子どもの集い」を開催した。



約120人の小学4～6年生の子どもたちと保護者・教会代表者が大曾教会に集合し、中濱繁喜師(大曾主任)のあいさつに続き、青方教会へ徒歩巡礼を行った。あいにくの雨の中、参加者たちは祈りの声を響かせなが

自作の祈りをカードに
上五島地区子どもの集い
ら元氣よく歩いた。青方教会に到着後、連

8月10日(水)～11日(木)、召命親子キャンプが佐世保市内の教会で行われた。県内から小学4～6年生の子どもたち34人、保護者とシスター15人、スタッフの司祭11人の計60人が参加した。



会敷地内でバーベキューをし、その後司祭団と志願生によるバンド、劇を鑑賞、花火、夕の祈りをし

大槌ベースボランティヤ募集

●10月13日(木)～19日(水)
●11月10日(木)～16日(水)
●12月8日(木)～14日(水)
(9/14締切)
(10/12締切)
(11/9締切)

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。

TEL 095・842・4450
FAX 095・842・4460

て22時に消灯。2日目は6時30分からミサ、ラジオ体操、朝食、後片付けをしてから、大崎教会に移動。聖堂で信徒と司祭による召命についての話を聞いた後、船に乗って釣

8月9日(火)8時半、純心中学・女子高等学校(東千代子校長、長崎市文教町)は、原爆で亡くなった純女学徒隊の人々

をしのぶと、に世界平和の実現を願って、ミサと墓

員代表による献花と生徒代表による慰霊の言葉、最後に中学コーラス部の生徒らが「千羽鶴」の前

▼大村殉教祭 9月11日(日)13時、シーハットおおむら・さくらホール。

▼十字架山殉教祭 9月11日(日)14時、十字架山(長崎市辻町)。浦上小教区主催。

海の日の7月18日(月)、平戸地区信仰教育委員会主催による「召命フェスティバル in 田平」が、田平教会と信徒

の6時間、平戸地区内の小学生103人が司祭・修道者の召命について学び、神の招く声に耳を傾けようと時を過ごした。

午後からは召命委員会の司祭たちによるバンド演奏、劇「本当に大切なもの」を観たり、各教会の紹介やゲームをしたりして、他小教区の子とも

▼大村殉教祭 9月11日(日)13時、シーハットおおむら・さくらホール。

▼十字架山殉教祭 9月11日(日)14時、十字架山(長崎市辻町)。浦上小教区主催。

一緒に聖書を
読みませんか
【聖書100週間】9月開講

2011年6月に開始した教区信仰養成部主催の講座「聖書100週間」が、5年かけてこの7月にプログラムを終了した。

初回は9月29日(木)午前10時、会場はカトリックセンター。10月から毎月第2・第4木曜に行われる。指導は信仰養成部長の中濱敬司師。

▼聖トマス西と十五殉教者祭 9月25日(日)14時、中町教会。

いのちの尊さ学ぶ

中学生を含む130人が参加

徳・体・感性が調和したいのち輝く子どもへの成長を目指して企画された。



講師を務めた酒井孝子氏(鹿児島純心大学非常勤講師)は、映像を交えながら生命の誕生と胎内での成長過程を解説し、神によって与えられたいのちの尊さを語った。また、教区家庭委員会のソボン・タデウス師(サレジオ修道会)は、教会の教えに基づいて「いのちの尊厳」を説明。2つの講話を受けて、中学生は8つのグループに分かれて分かち合い、その内容を発表した。

7月24日(日)13時からカトリックセンターで、長崎北地区家庭委員会主催の「教会の教えに基づくいのちの学び」が行われ、6小教区(出津・時津・長与・植松・浦上・木鉢)の中学生43人と高校生2人を含む、約130人が参加した。中高校生を対象としたこの集いは、いじめ・不登校・薬物・性の逸脱などの問題が山積する社会環境にあって、「キリスト教的価値観を持ち、知・

平和をもたらず人は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5・9)

夏が来ると「あの原爆の日」のことを思います。一瞬のうちに亡くなった家族、言い尽くしたい苦難のうちに亡くなった人々、原子野の絶望から、信仰と愛のうちに再建に取り組んできた人々のことを思い、哀悼の意と敬意を表します。70年たつて穏やかな日々を取り戻したようにも見えますが、さまざまな意味で、戦後の処理が終わっていないことを痛感することも多くあります。戦争を終わらせることのなんと難しいことか。そして毎日のニュースは、世

カトリック雑誌の音訳(朗読)者募集

連絡先 声の奉仕会・マリア文庫

長崎市橋口町5-18

☎095・847・5134

*火・金(10・16時)

✉koenok@mx.cncm.ne.jp

申込期間 9月13~23日

モナコ少年合唱団 純心中学生と交流

7月19日(火)、純心中学校は「モナコ少年合唱団」とモナコ公国駐日大使ご夫妻をお迎えしました。

日本・モナコ外交樹立10周年を記念して全国ツアーのために来日した合唱団が、最初の公演の都市として長崎を訪れました。浦上教会での19時から、合唱団員24人と大使ご夫妻を聖堂にお迎えして、全員で校歌を歌って歓迎式を行いました。続いて、中学3年生は調べ学習をして準備をした



浦上教会での共演(提供:長崎市)

長崎の文化、遊び、祭り、原爆・平和など12グループに分かれ、各グループ2人の団員を迎えて、英語で交流をしました。モナコ大聖堂で公演をしている団員と、カトリック校に学ぶ生徒たちの間には、心配するほどの壁

子どもの成長を実感

長崎地区子どもスポーツ大会

模の小教区からあり、10年ほど前からドッ

8月3日(水)シーハットおおむらで長崎地区子どもスポーツ大会が開催され、長崎3地区内の16小教区から300人を超える小学生が参加した。「学年や性別による体力差がハンディにならない、誰でも参加できる競技を」との声が小・中規

はなく、会話が弾んでいました。コーラス部47人は、光栄なことに浦上教会での公演に一部共演し、3曲歌いました。生徒たちにとって「夢のような交流と公演」の機会となりました。被爆から再建された教会で響く「天使の歌声」は、世界が平和になるようにとの祈りとなり、モナコと長崎の人々の心を結ぶ絆となりました。

長崎純心大学

濱田洋子

みことばにふれて130

濱田洋子シスター(純心聖母会)



世界各地の紛争、内戦、民族の対立から起こる悲劇を伝えていきます。多くの人々の努力と犠牲にもかかわらず、事態は悪化の道をたどり、貧困や飢餓、難

子野に生きる人々は、冬に備えて雨や雪をしのぐ住まいのことを心配し、床に伏す家族に何か好きな食物を用意したかったことでしょうか。穏やかで平和だった日々を思ったことでしょうか。

平和を考えることは「遠い世界のこと」でも無力なことではありません。私たちの日常を見渡してみても、対立、分裂、意見の相違、争いがあります。自分が争いを起こしたり、対立に巻き込まれたりし

民の問題はますます大きくなるばかり。平和を考えることは無力なことなのでしょうか。あの恐ろしい核兵器に関しても、核廃絶の願いの声は、風

「遠い世界のこと」でも無力なことではありません。私たちの日常を見渡してみても、対立、分裂、意見の相違、争いがあります。自分が争いを起こしたり、対立に巻き込まれたりし

荒々しい道であっても。毎日の暮らしの中でも遠い世界に向かって、「長崎からの平和の祈り」を携えて平和を

7月28日、聖ヨハネ・ホスピス(東京・桜町病



ユスチノ

戸村修神父

(聖パウロ修道会)

7月9日、長崎市の日

浦病院で逝去。90歳。



ヨハンナ
小林三枝修道女

(お告げのマリア修道会)



聖ヨハネ23世のDVD発売

2014年4月、同時に列聖された2人の教皇、ヨハネ・パウロ2世と



教区若手司祭からなる実行委員会は、「子どもの数が少なくなり、小教区単独チームを編成するのが難しくなってきた」との事情はある。だが、近隣の教会と合同チームを組むなど、ちょっとした工夫で子どもたちによいものが提供できる。来年も多くのチームの参加を願いたい」としている。優勝 浦上、準優勝 滑石、3位 植松。

ヨハネ23世「カロール——教皇になった男」に続いて、「聖ヨハネ二十三世平和の教皇」の日本語字幕版がこのほど完成し、現在、全国のカトリック書店で購入できる。

本作は、前半でその少年時代から教皇ヨハネ23世の誕生までを、後半では大きな愛と人間性をもって平和の実現者と呼ばれた稀代の偉大な教皇

の生涯を描く。エド・アズナー主演、ジョルジオ・カピターニ監督。日本語字幕版製作はカロール日本語字幕版DVD製作委員会(www.karoldvd.jp)。

高見三明大司教、カトリック中央協議会広報、SIGNS JAPAN(カトリックメディア協議会)推薦。上智大学後援。定価(税別)3千円。

1926年新上五島町生まれ。62年大浦修道院に入会。66年初誓願、70年終生誓願宣立。誓願後、大浦修道院の院長、修練長を務め、マリア会シヤミナード学園、旧大浦司教館、志願院、保育所などで調理を担当した。本来体が強くなかったが80歳近くまで修道院の調理を務め、料理の才

能と心遣いは姉妹たちの語り草となっていた。晩年は長崎市西出津町の養護老人ホーム「聖マルコ園」に入所し、職員や親族、出津修道院の姉妹に支えられた。また、4年前には姉妹の手を借りて故郷を訪れ、特別な喜びの時を過ごした。葬儀ミサ・告別式は10日、聖マルコ園で行われた。

院で肺がんのため逝去。61歳。1954年長崎市生まれ。浦上教会で受洗。67年同会入会、79年初誓願、84年終生誓願宣立、同年11月23日東京・イグナチオ教会で司祭叙階。

以後、中央協議会広報委員会秘書、聖パウロ学園高等学校勤務。その後、主に月刊誌「家庭の友」

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 奈留会館
代表取締役 ヨセフ 浦 昭
24時間営業
五島市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

ご先祖に心より感謝を・・・

材石治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

カトリック婚活支援パーティー

2016年11月27日(日)13時から滑石教会信徒会館にて
対象 カトリック信者で初婚の方 参加費 1,000円
人数 男女各20名(定員) 締切 11/13(日)17時
申込 カトリック滑石教会 婚活支援部 <滑石教会の申込書に記入・提出していただき、電話確認後受け付け>
問合せ TEL 095-856-8623 FAX 095-856-8603 (滑石教会)
✉e-kekko@jupiter.ocn.ne.jp ☎090-6293-2408 (畑原)



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL (095) 844-4011
24時間営業 FAX (095) 843-9896

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488